

2016年3月期
(2015年度)

第2四半期
決算概要

RICOH
imagine. change.

2015年10月30日
株式会社リコー



リコーブランド初の3Dプリンター「RICOH AM S5500P」

■ 本資料に関する注意事項

本資料に記載されている、リコー(以下、当社)現在の計画、見通し、戦略などのうち、歴史的
事実でないものは、将来の業績に関する見通しであり、これらは、現在入手可能な情報から
得られた当社の経営者の判断に基づいております。

従って、実際の業績はこれらと異なる結果となる場合がありますので、これら業績見通しにの
み全面的に依拠なさないようお願い致します。

実際の業績に影響を与えうる重要な要素には、a) 当社の事業領域を取り巻く経済情勢、景
気動向、b) 為替レートの変動、c) 当社の事業領域に関連して発生する急速な技術革新、
d) 激しい競争にさらされた市場の中で、顧客に受け入れられる製品・サービスを当社が設計
・開発・生産し続ける能力、などが含まれます。ただし、業績に影響を与えうる要素はこれらに
限定されるものではありません。(参照:「事業等のリスク」www.ricoh.com/ja/IR/risk.html)

本資料に他の会社・機関等の名称が掲載されている場合といえども、これらの会社・機関等
の利用を当社が推奨するものではありません。

本資料に掲載されている情報は、投資勧誘を目的にしたものではありません。
投資に関するご決定は、ご自身のご判断において行うようお願い致します。

* 当連結会計年度より、一部のリース取引を総額表示から純額表示に変更しております。
これに伴い、該当する過去の売上実績、またこれに関連する指標・数値については遡及表示しております。

- 1. 2016年3月期 第2四半期決算**
- 2. 2016年3月期 通期見通し**
- 3. 今後の方向性**

1. 2016年3月期 第2四半期決算

2016年3月期 第2四半期累計 <概略>

- ✓ 売上高:10,951億円、前年同期比+6.1%
MFP・プリンター・PP・海外ITサービス・産業分野の売上拡大
- ✓ 営業利益:561億円、前年同期比+0.4%
積極的な拡販を展開しながらも、構造改革進展による
費用減により前年同期比増益
- ✓ 当期利益:345億円、前年同期比+1.7%
- ✓ 上期実績・競争環境・マクロ環境などを踏まえ通期見直し修正
市場稼働台数は着実に増加、ノンハードも継続改善見込む
- ✓ 増益達成により上期配当金は予定通り増配
期末配当金も増配見直しに変更なし

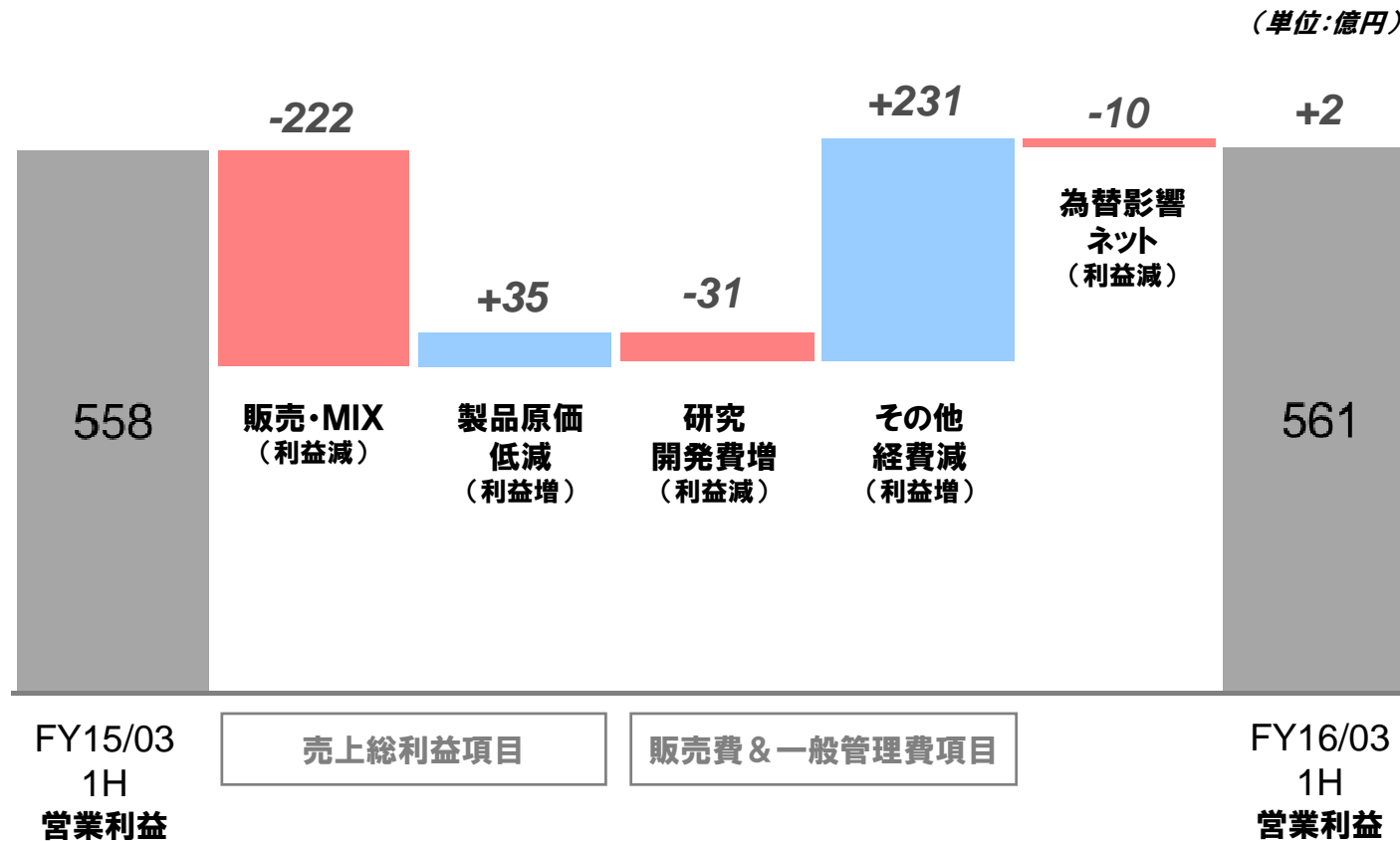
2016年3月期 第2四半期累計 主要指標

RICOH
imagine. change.

	FY16/03 1H実績	前年同期比	為替除く売上高 前年同期比	
売上高	10,951億円	+6.1%		
営業利益	561億円	+0.4%	日本	▲2.1%
営業利益率	5.1%	▲0.3pt	米州	▲1.8%
当期利益 <small>(親会社の所有者に帰属)</small>	345億円	+1.7%	欧州	+5.0%
EPS	47.65円	+0.78円	その他	+8.8%
FCEF *	60億円	+161億円	合計	+0.8%
研究開発投資	577億円	▲4億円		
設備投資 <small>(有形固定資産)</small>	409億円	+22億円		
減価償却費 <small>(有形固定資産)</small>	345億円	▲12億円		
平均為替レート	1USドル	121.80円		
	1ユーロ	135.13円		

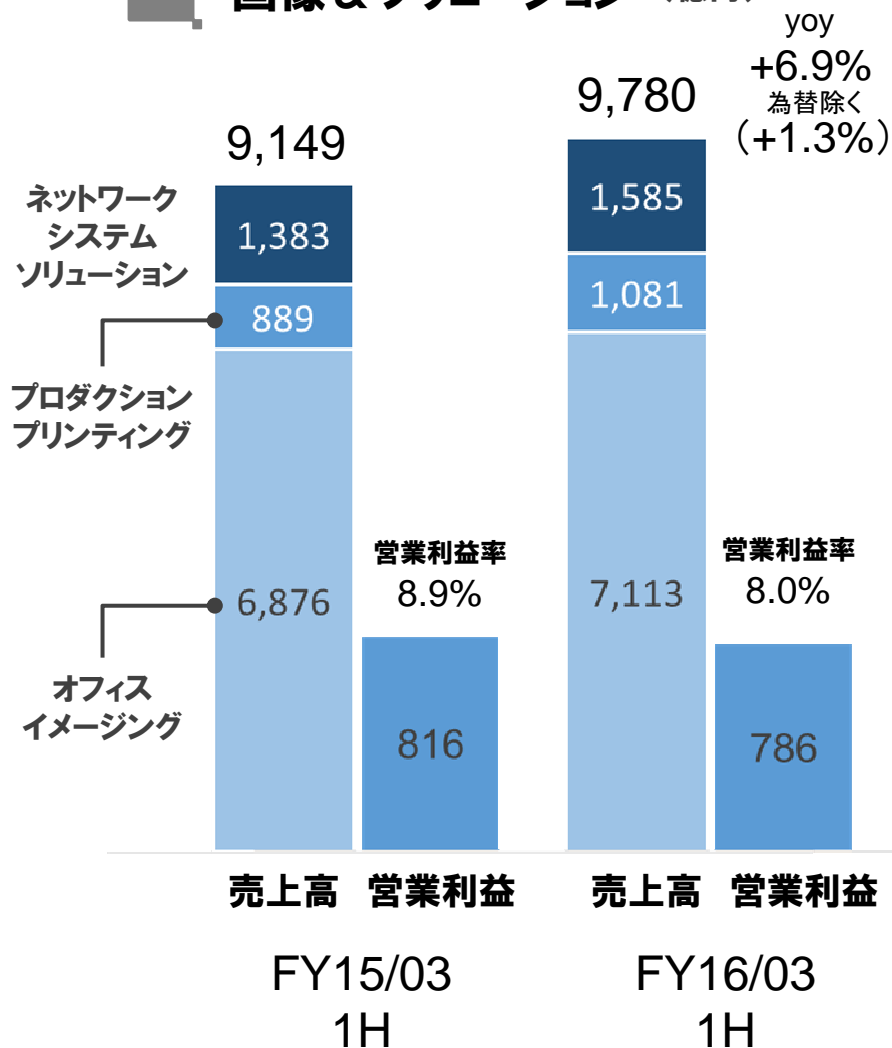
* FCEF (Free Cash flow Excluding Finance business) : ファイナンス事業を除くフリーキャッシュフロー

2016年3月期 第2四半期累計 営業利益前年比増減



事業セグメント別 前年同期比(1)

画像 & ソリューション (億円)



【オフィスイメージング】 yoy +3.4% (-2.5%)
為替除く

- ・A4MFPラインアップを拡大
「SP 3610SF」「MP C306」
「MP 305+」



- ・東欧販売体制を強化
「Impromat(チェコ、スロバキア)」買収

【プロダクションプリンティング】 +21.6% (+12.7%)

- ・商用印刷市場向け事業拡大が進展
「RICOH Pro C7100/C9100」好調継続
「RICOH Pro VC60000」納入開始

【ネットワークシステムソリューション】 +14.6% (+12.5%)

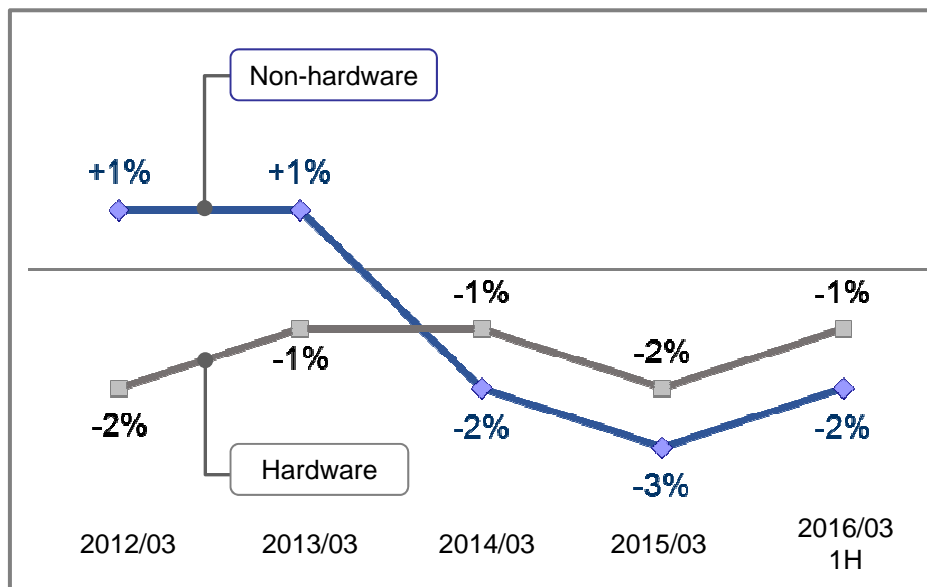
- ・海外ITサービス事業が大幅に成長
インドのITサービス事業が好調に推移
- ・ITサービス体制を継続的に強化
「Ridgian(英国)」「Nassion(マレーシア)」買収
- ・ビジュアルコミュニケーション事業が
海外で好調に拡大

*全社・消去を除く。FY16/03期は固定資産売却分含む

(補足) 画像機器ハード・ノンハード推移

【MFP・プリンター・PP計 売上高前年比伸び率推移】

(金額ベース、為替除く)



(FY16/03 1H概況)

- ・A3カラーMFP、A4MFPの販売台数が拡大し、MFPのMIF増加
- ・PPは新製品のカットシートカラー機が大幅伸張、ノンハード拡大も継続
- ・欧州はハードが拡大、ノンハードも回復基調
- ・その他(AP&中国)はノンハードが堅調に拡大

(参考)製品別	ハード		ノンハード
	台数	金額	金額
MFP	+0%	-4%	-4%
プリンター	+20%	-2%	-1%
PP	+8%	+15%	+8%
合計		-1%	-2%

(金額は為替除く)

(参考)地域別	ハード	ノンハード
	日本	-1%
米州	-6%	-3%
EMEA	+6%	-2%
その他	-3%	+4%
合計	-1%	-2%

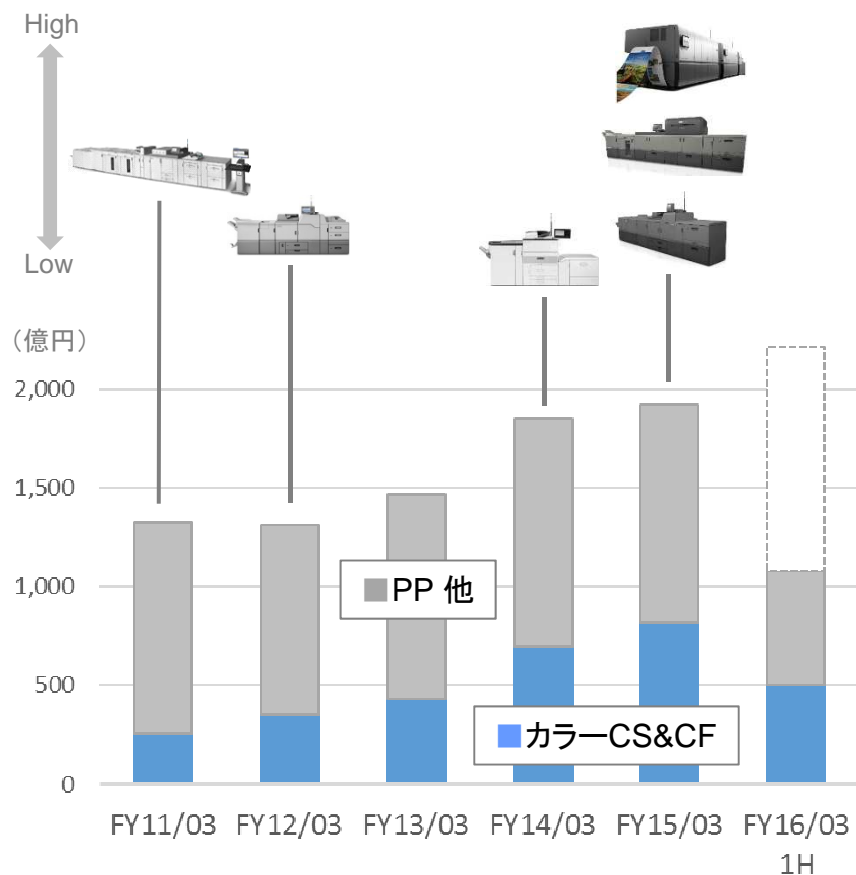
(金額ベース、為替除く)

*四半期推移は別冊補足資料を参照



(補足) 画像 & ソリューションの成長領域

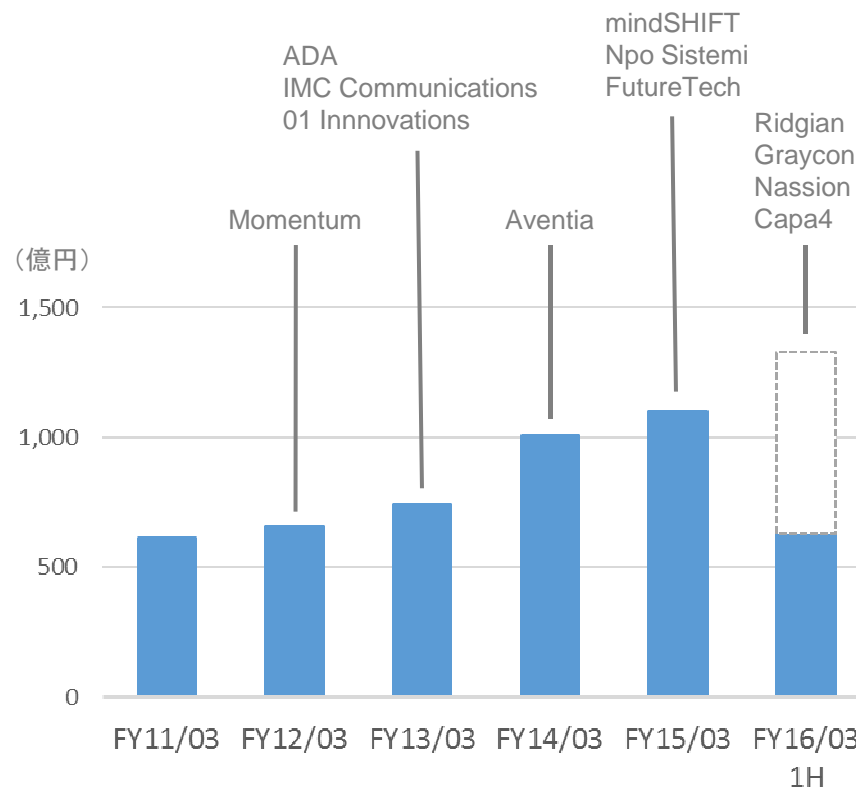
【プロダクションプリンティング(PP) 売上高推移】



- ・カラーCS&CF製品拡大により、商用印刷へ事業領域を拡大し着実に成長
- ・PP事業が各極業績を牽引し始めた

【ITサービス&ビジュアルコミュニケーション売上高*推移】

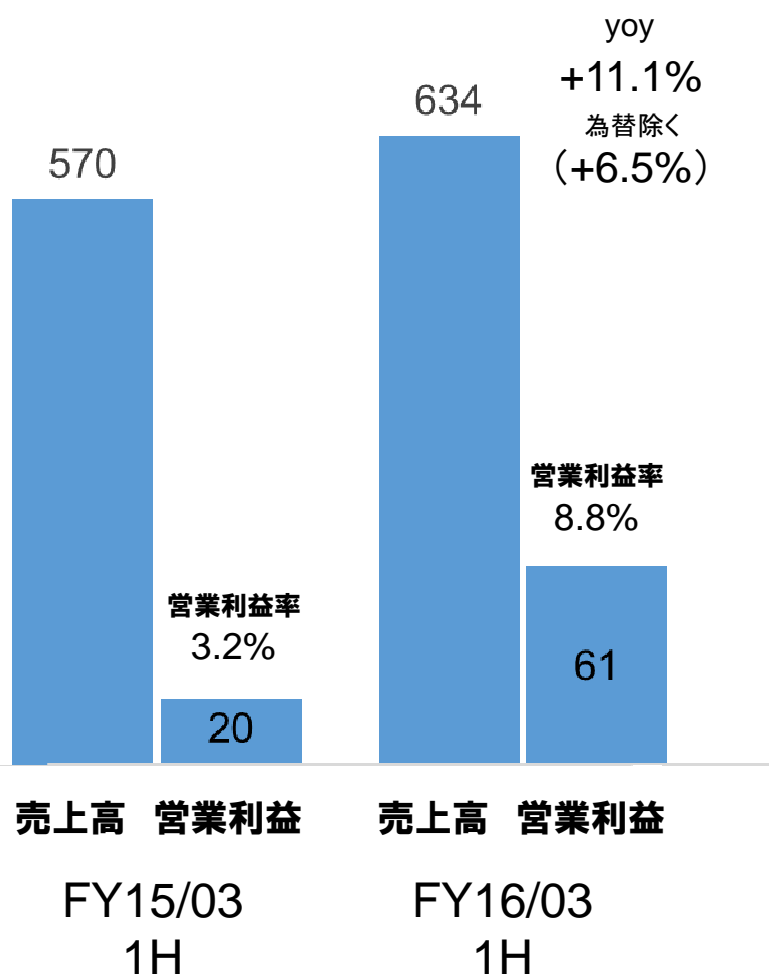
*ネットワークシステムソリューション分野に含まれる



- ・戦略投資によりITサービスが全世界で拡大
- ・画像・IT・ビジュアルコミュニケーションによる新たな価値提案が拡大

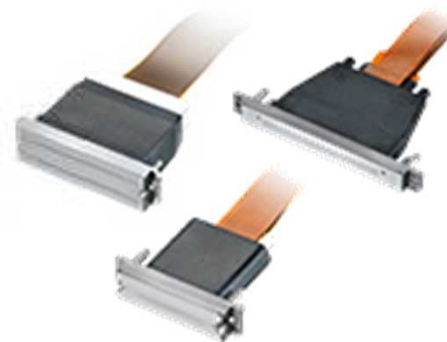
事業セグメント別 前年同期比(2)

産業 (億円)

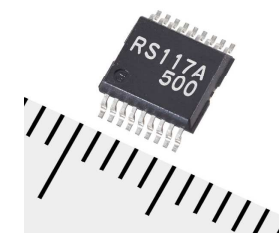


【上期の取り組み】

- ・サーマルメディアが新興国で拡大
インドネシアに熱転写リボン加工・販売会社設立
- ・産業用インクジェットが産業印刷向け、3Dプリンター向けに拡大
- ・光学モジュールの販売拡大
- ・車載機器向け電源IC発売。欧州販売拠点開設



産業インクジェットヘッド
RICOH MH/GHシリーズ

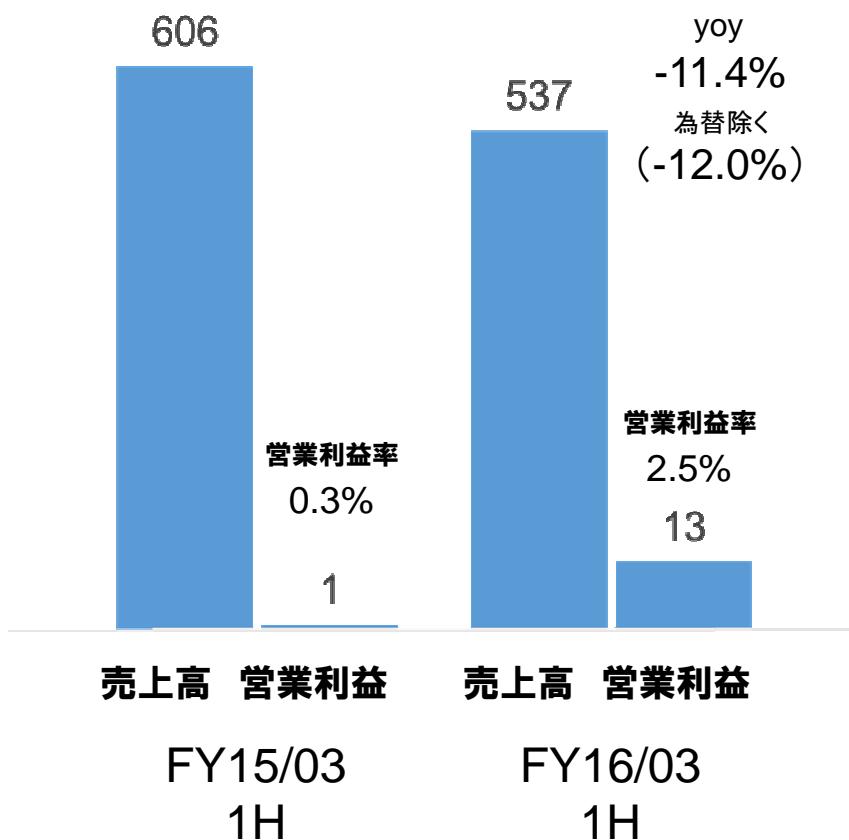


車載向け半導体
R1272Sシリーズ

*全社・消去を除く

事業セグメント別 前年同期比(3)

■ その他 (億円)



【上期の取り組み】

- ・衣料事業売却影響により減収
- ・リコーならではのカメララインアップを強化
 ハイエンドコンパクトカメラ「GR II」
 防水・耐衝撃対応「RICOH WG-40W」
- ・カメラ事業で全天球画像ソリューションを拡充
 「THETA S」全天球動画処理・画質を強化
 B2Bソリューションを拡大(不動産など)



RICOH WG-40W



RICOH THETA

*全社・消去を除く

連結財政状態計算書(1)

資産の部

(単位:億円)	2015年9月末	15/03末比 増減額
流動資産	12,787	+623
現金及び預金	1,809	+423
営業債権及びその他の債権	5,528	△6
その他の金融資産	2,712	+111
棚卸資産	2,275	+30
その他の流動資産	461	+64
非流動資産	15,366	+228
有形固定資産	2,781	+15
のれん及び無形資産	4,345	△12
その他の金融資産	6,239	+221
その他の非流動資産	1,999	+3
資産合計	28,153	+851

(15/03末比増減)

(参考)期末日為替レート: US\$ 1 = ¥ 119.96 (-0.21)
EURO 1 = ¥ 134.97 (+4.65)

【上期の取り組み】

<現金及び預金>

支払いタイミングずれによる一時的増加

<その他金融資産(流動、非流動)>

ファイナンスビジネス拡大によりリース資産が増加

<棚卸資産>

米国港湾ストによる在庫の削減は進展、一括商談対応用在庫などが増加。

回転期間は改善(3/末:2.16→9/末:2.11)

<資産合計>

一時的現金増加と、リース資産増加により3/末比で851億円増加

連結財政状態計算書(2)

負債及び資本合計の部

(単位: 億円)	2015年9月末	15/03末比 増減額
流動負債	7,944	+223
社債及び借入金	2,220	+0
営業債務及びその他の債務	2,555	△214
その他の流動負債	3,168	+437
非流動負債	8,441	+404
社債及び借入金	6,150	+465
退職給付に係る負債	1,365	△75
その他の非流動負債	925	+14
負債合計	16,386	+627
親会社の所有者に帰属する持 分合計	11,072	+230
非支配持分	695	△5
資本合計	11,767	+224
負債及び資本合計	28,153	+851
有利子負債合計	8,371	+465

(15/03末比増減)

(参考)期末日為替レート: US\$ 1 = ¥ 119.96 (- 0.21)
EURO 1 = ¥ 134.97 (+ 4.65)

【上期の取り組み】

<有利子負債合計>

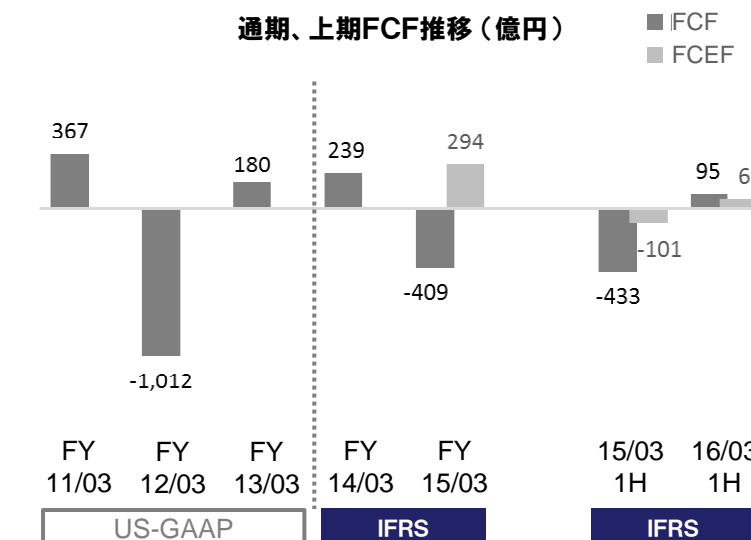
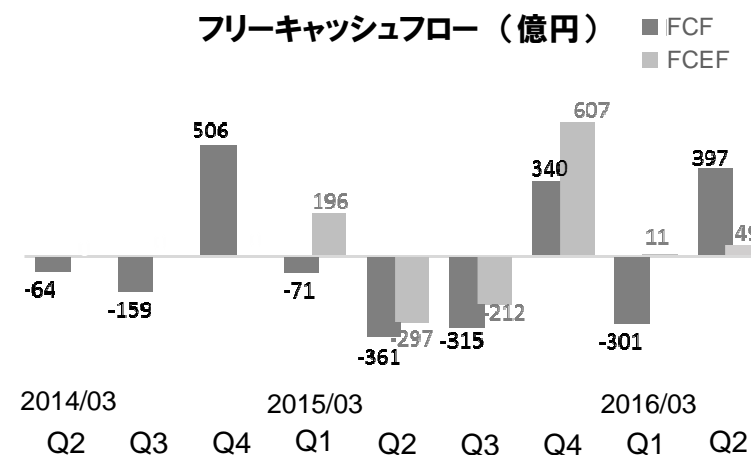
ファイナンス事業拡大に対応して増加
D/Eレシオには大きな変化なし

<親会社の所有者に帰属する持分合計>

株主資本比率はほぼ横ばいを維持
(3/末: 39.7% → 9/末: 39.3%)

連結キャッシュフロー計算書

(単位：億円)	FY2015/03 Apr-Sep	FY2016/03 Apr-Sep
当期利益	368	373
減価償却費	539	531
[当期利益+減価償却費]	[907]	[905]
その他の営業活動	-716	-348
営業活動によるキャッシュフロー	191	556
有形固定資産の購入および売却	-383	-229
事業の買収	-45	-47
その他の投資活動	-195	-183
投資活動によるキャッシュフロー	-624	-460
有利子負債の純増減	454	484
支払配当金	-119	-123
その他の財務活動	-3	-27
財務活動によるキャッシュフロー	330	334
換算レートの変動に伴う影響額	37	-4
現金及び現金同等物の純増減額	-64	424
現金及び現金同等物期末残高	1,335	1,801



*FCEF: ファイナンス事業を除くFCF

2. 2016年3月期 通期見通し

2016年3月期見通し 損益計算書

(単位: 億円)	FY2015/03 実績	FY2016/03 見通し	前年比較		
			金額差	伸び率	為替影響 除く伸び率
売上高					
(国内)	7,595	8,000	+104	+1.4%	+1.4%
(海外)	13,918	15,200	+1,381	+9.9%	+6.4%
合計	21,514	23,200	+1,485	+6.9%	+4.6%
売上総利益	9,069	9,730	+200	+2.2%	
(対売上高%)	42.2%	41.9%			
販売費 & 一般管理費	7,911	8,330	+198	+2.5%	
(対売上高%)	36.8%	35.9%			
営業利益	1,157	1,400	+2	+0.2%	
(対売上高%)	5.4%	6.0%			
税引前利益	1,122	1,350	-12	-1.2%	
(対売上高%)	5.2%	5.8%			
当期利益 (親会社の所有者に帰属)	685	830	+24	+3.6%	
(対売上高%)	3.2%	3.6%			
一株当たり当期利益	94.58	114.50	+3.36		
為替レート					
円/1US\$	109.89	120.33	+11.01		
円/1EURO	138.85	127.31	-6.28		

<投資関連>

(単位: 億円)	FY15/03 実績	FY16/03 見通し
研究開発投資	1,187	1,230
売上高比率	5.5%	5.3%
設備投資	759	850
減価償却費 (有形固定資産)	709	700

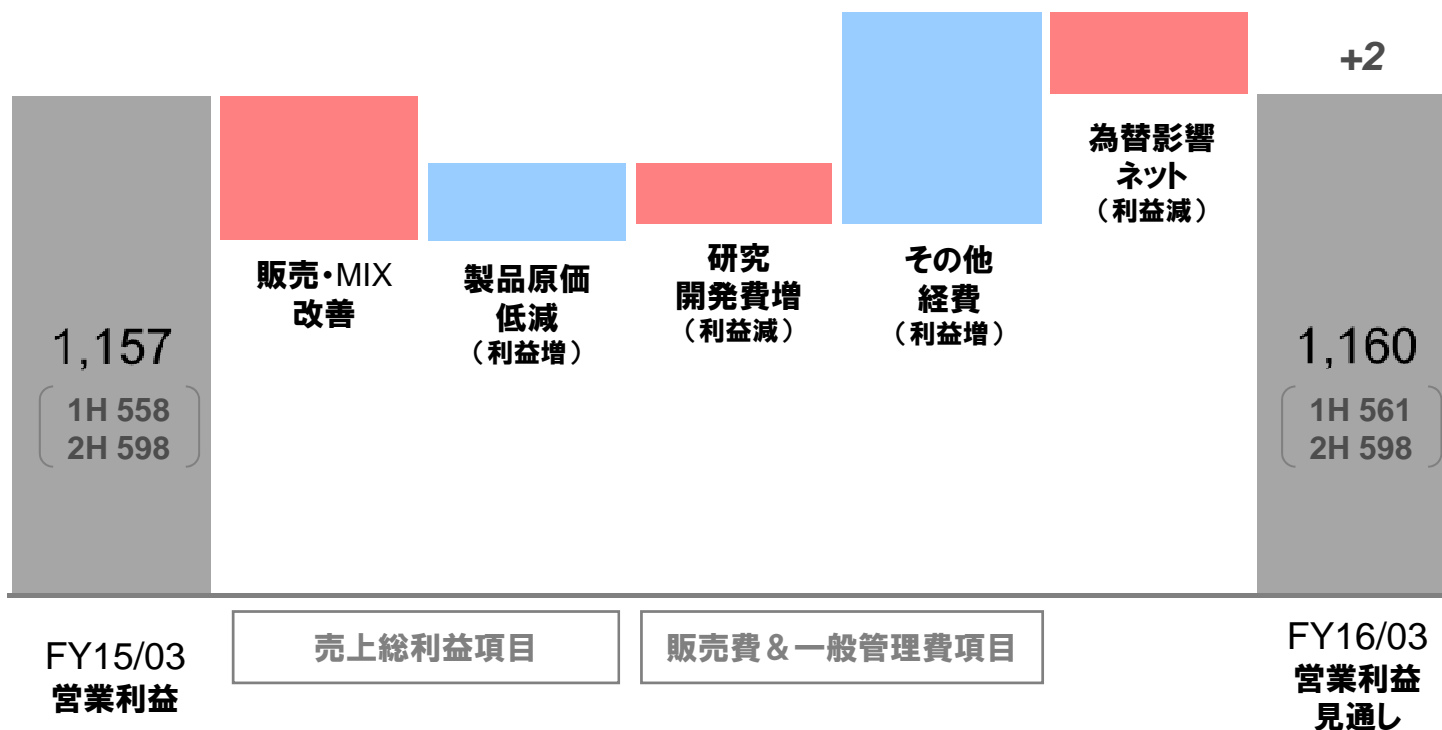
<FY16/03 為替レート前提>

	Q3-Q4	年間
1USドル	120.00円	120.90円
1ユーロ	130.00円	132.57円



2016年3月期見通し 営業利益前年比増減

前回見通し	+268	+100	-40	+25	-110	(単位:億円)
今回見通し	-188	+100	-80	+278	-107	
	(1H -222 2H +34)	(1H +35 2H +65)	(1H -31 2H -49)	(1H +231 2H +47)	(1H -10 2H -97)	



(参考)為替の前提

(単位:円)	FY15/03 実績	FY16/03 見通し	前年差
USDドル	109.89	120.90	+11.01
ユーロ	138.85	132.57	- 6.28

(参考)為替感応度

1円の変動による
年間影響額

(単位:億円)	売上	営業利益
USDドル	60	8
ユーロ	38	14

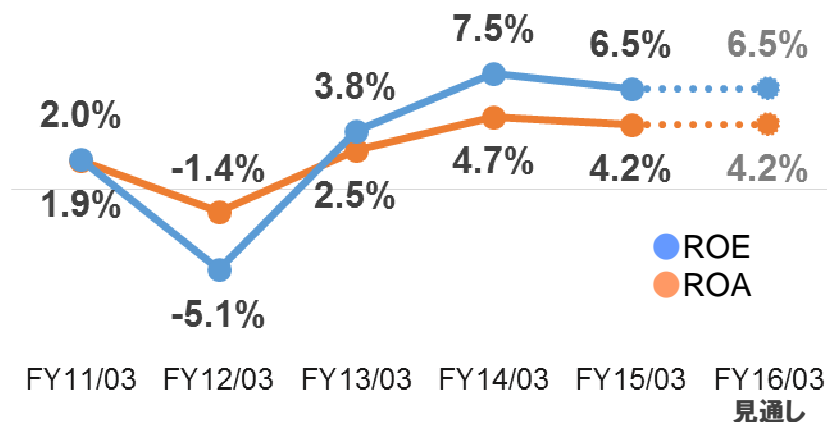


2016年3月期見通し 下期施策

主要施策	上期振り返り	下期の取り組み
MFP拡販による アフター収益の 最大化	販売拡大施策展開によりMIFは 増加。PV微増継続。競争激化の 影響で、ノンハード売上はマイナ スが続く	<ul style="list-style-type: none"> ・収益性を踏まえたMIF拡大施策 の継続 ・画像・IT・VCの統合ソリューション による差別化提案を拡大
特定市場に フォーカスした サービス事業拡大	全極で業種別の販売体制構築を 完了	<ul style="list-style-type: none"> ・業種向け提案活動の本格拡大
最強ラインアップに よるPP事業の収益 拡大	前期末投入の新製品が全世界で 好調に拡大	<ul style="list-style-type: none"> ・商用印刷市場への販売拡大を 加速
インダストリ事業の 拡大	光学モジュール、産業用インクジ ェットが好調に拡大	<ul style="list-style-type: none"> ・製品・ソリューションの強化・拡大 を継続
持続的な構造改革 の展開と加速 資産効率の向上	業務プロセス改革、拠点・資産 見直しなどが進展	<ul style="list-style-type: none"> ・全社業務プロセス見直し、 本社機能改革の継続 ・為替変動への対応検討 (販売、生産、調達、etc)

(補足) 経営指標推移

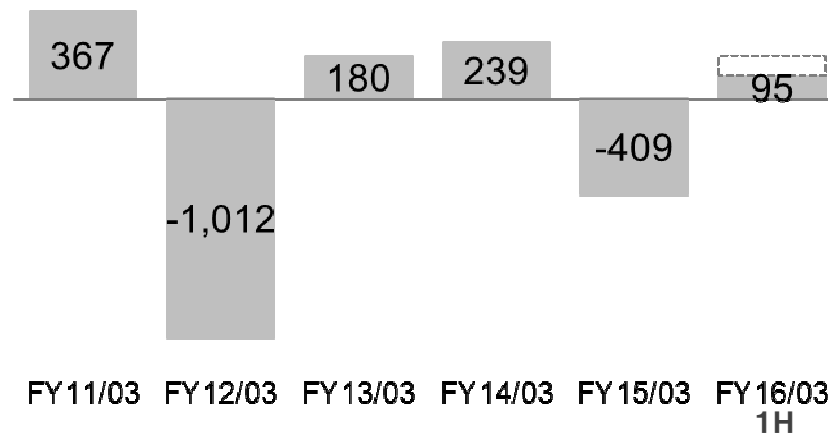
ROE/ROA* *総資産税引前利益率



US-GAAP

IFRS

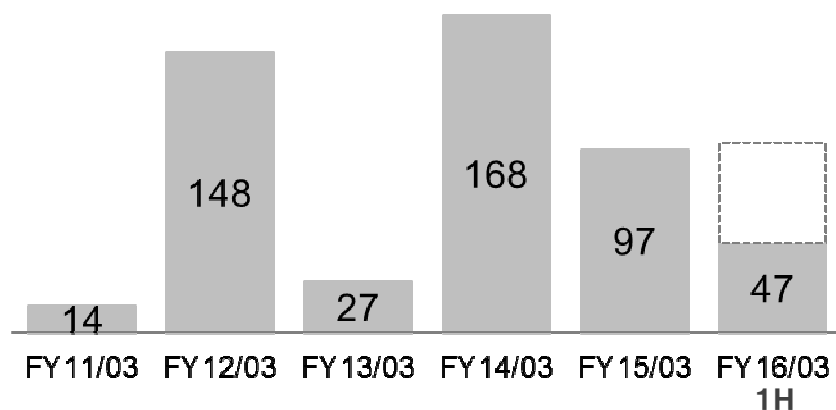
FCF (単位: 億円)



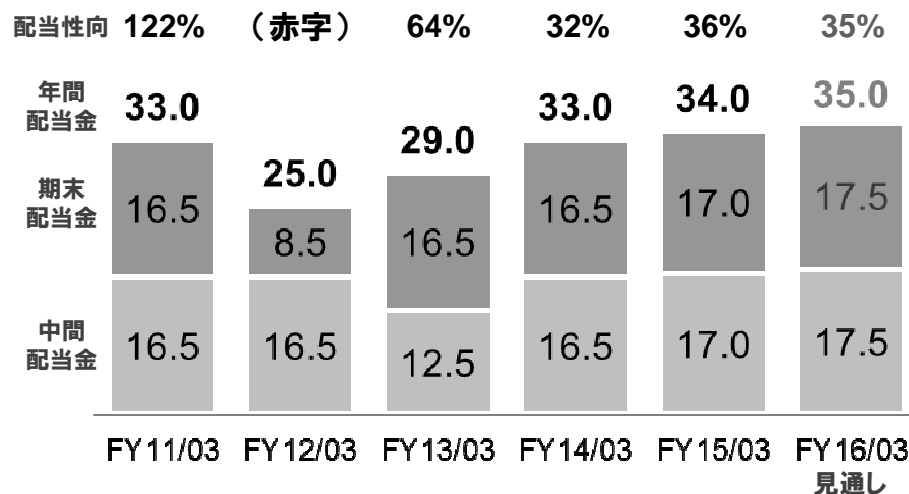
US-GAAP

IFRS

M&A *キャッシュフロー計算書記載額 (単位: 億円)



配当金 (単位: 円)



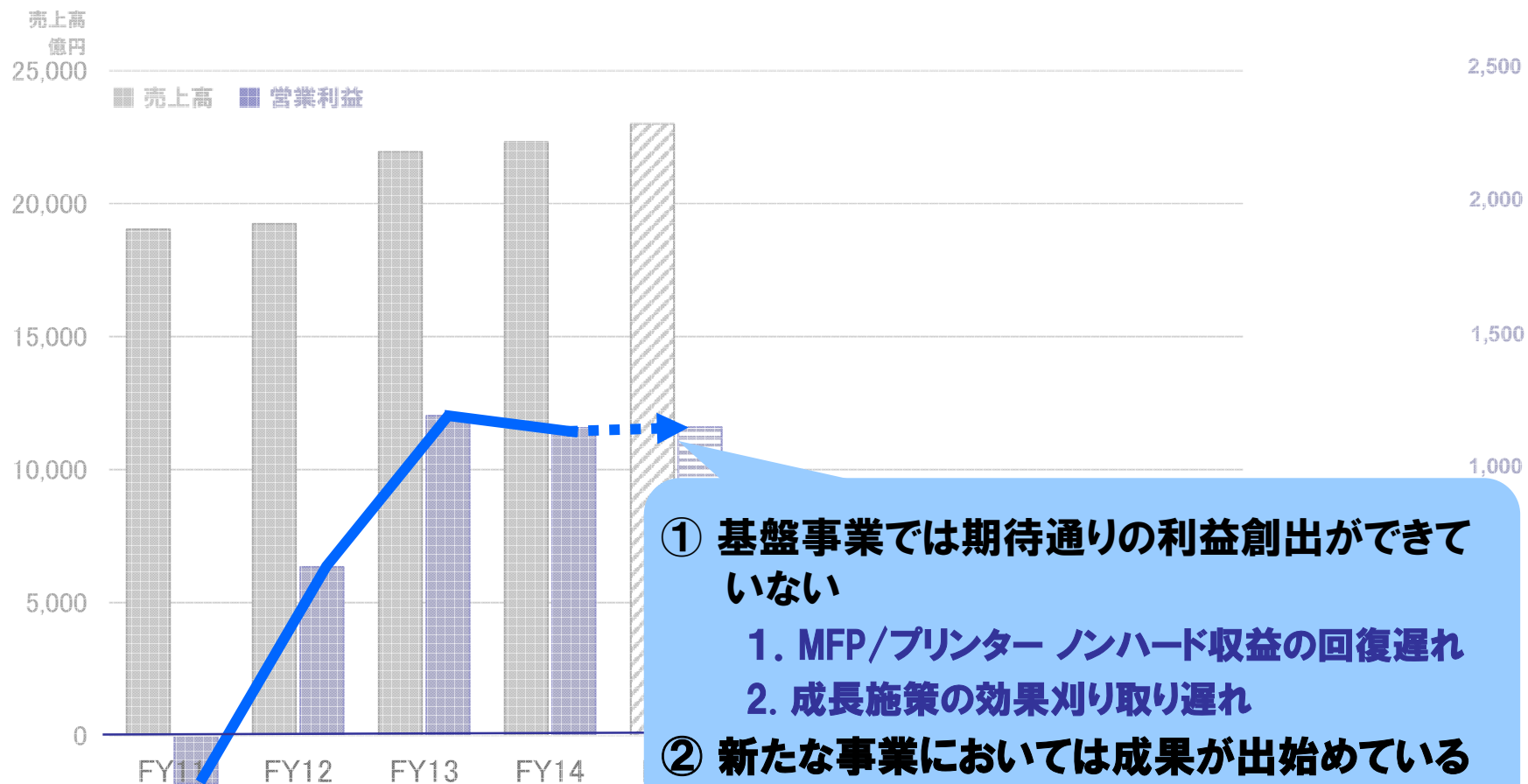
3. 今後の方向性

① 基盤事業収益力の強化と成長

② 新たな事業の柱の構築による成長

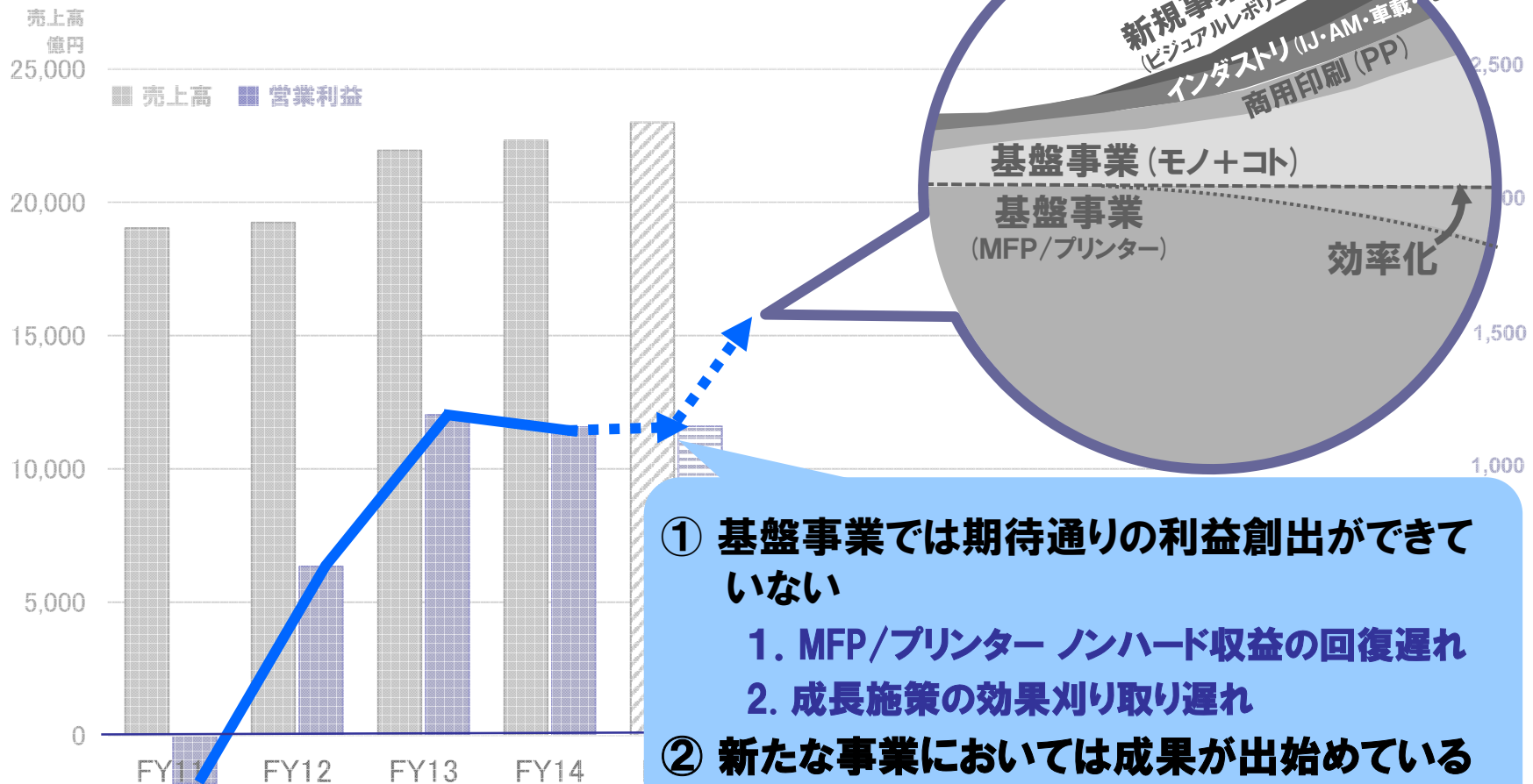
リコーグループの業況と課題

◆ 業績推移（グループ連結）



リコーグループの業況と課題

◆ 業績推移（グループ連結）



① 基盤事業収益力の強化と成長

② 新たな事業の柱の構築による成長

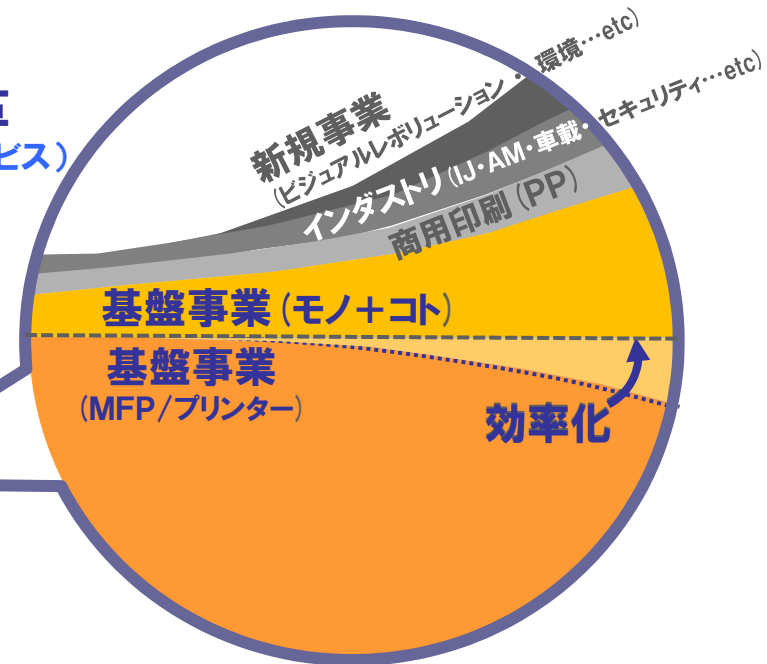
■ 基盤事業の強化策

◆ 基盤事業の「効率化」施策

1. バリューチェーン※での抜本的なプロセス改革
(※バリューチェーン: 企画-開発-購買-生産-販売-保守サービス)
2. 商品改革による徹底した製造・サービスコストの低減

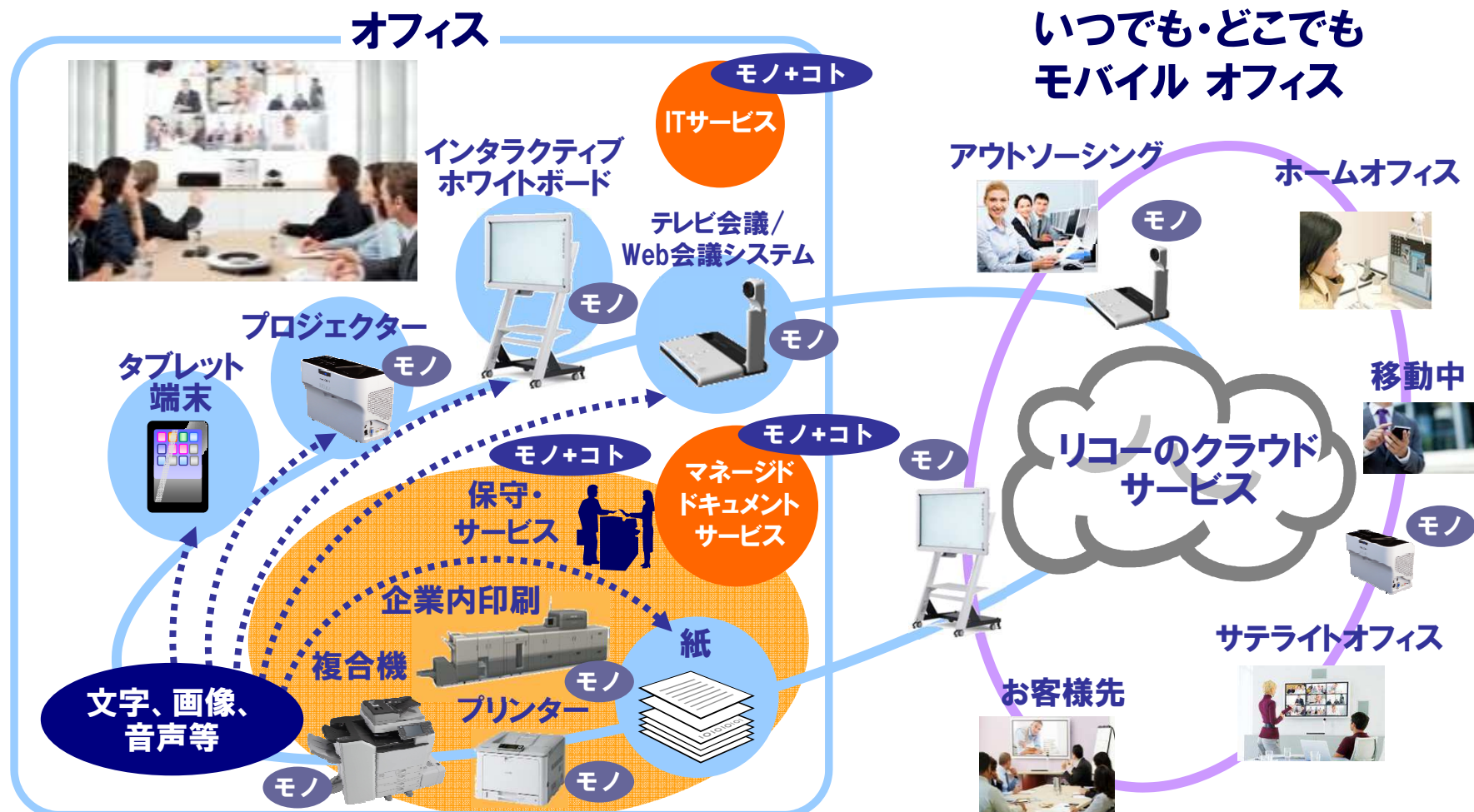
◆ 基盤事業の「価値向上」施策

1. 「モノ+コト」のさらなる進化
2. 各地域での業種に特化した体制強化



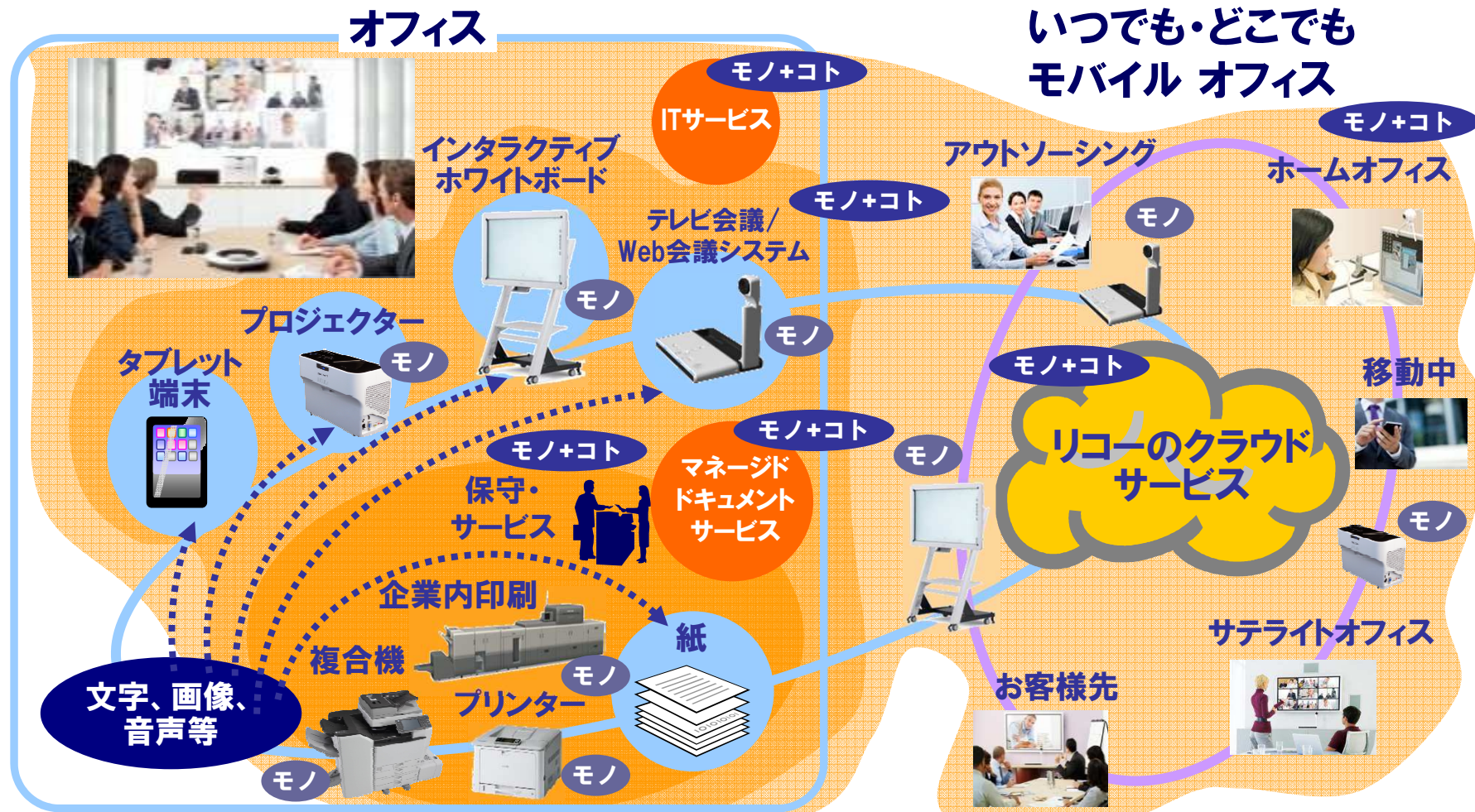
■ 基盤事業における「モノ+コト」の進化

◆ お客様のコミュニケーションや働き方が変化しつつある



■ 基盤事業における「モノ+コト」の進化

- ◆ お客様のコミュニケーションや働き方が変化しつつある
- ◆ 「モノ+コト」で、お客様のお仕事をまるごとサポート



■ 基盤事業における「モノ+コト」の進化

RICOH
imagine. change.

◆ お客様の働き方の中で「新しい価値」を提供し続けていく



■ 基盤事業における「モノ+コト」の進化

戦略的な ITサービス会社の買収

- 2009 Carl Lamm 
- 2011 Momentum Infocare 
- 2012 ADA 
IMC Communications 
01 Innovations 
- 2013 Aventia 
- 2014 mindSHIFT 
Npo Sistemi 
FutureTech/FutureWare 
- 2015 Ridgian  Graycon 
Nassion  Capa 4 

ITサービス商談事例

リコーインド 

インド郵便局に
ICTソリューション提供へ

～ 137億ルピー（約260億円）～

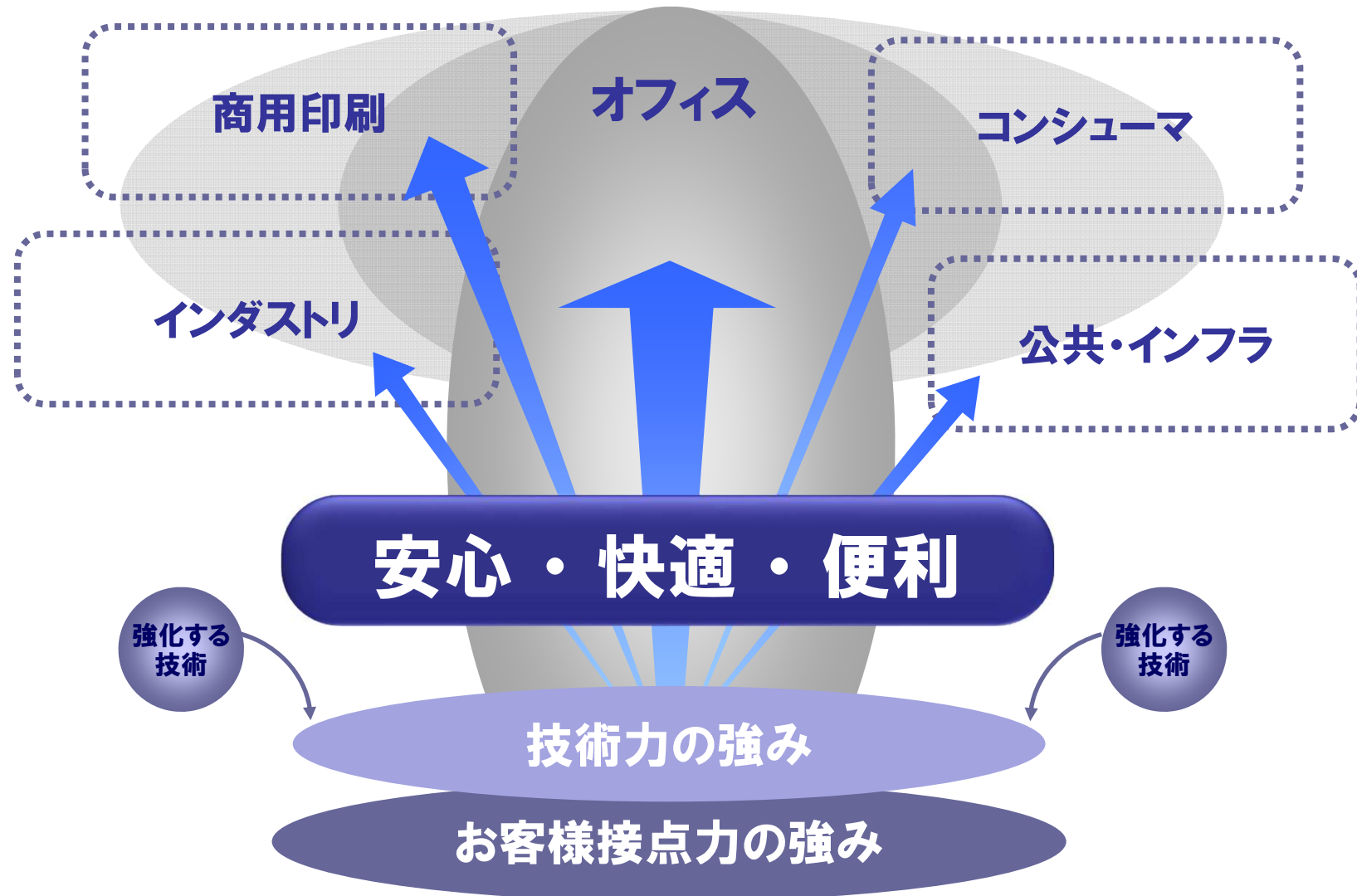
129,000の郵便局の
郵便事業や金融サービスに関わる
業務の電子化に貢献

※ルピー/円為替レートは実勢レート（2014年11月25日時点）を使用

① 基盤事業収益力の強化と成長

② 新たな事業の柱の構築による成長

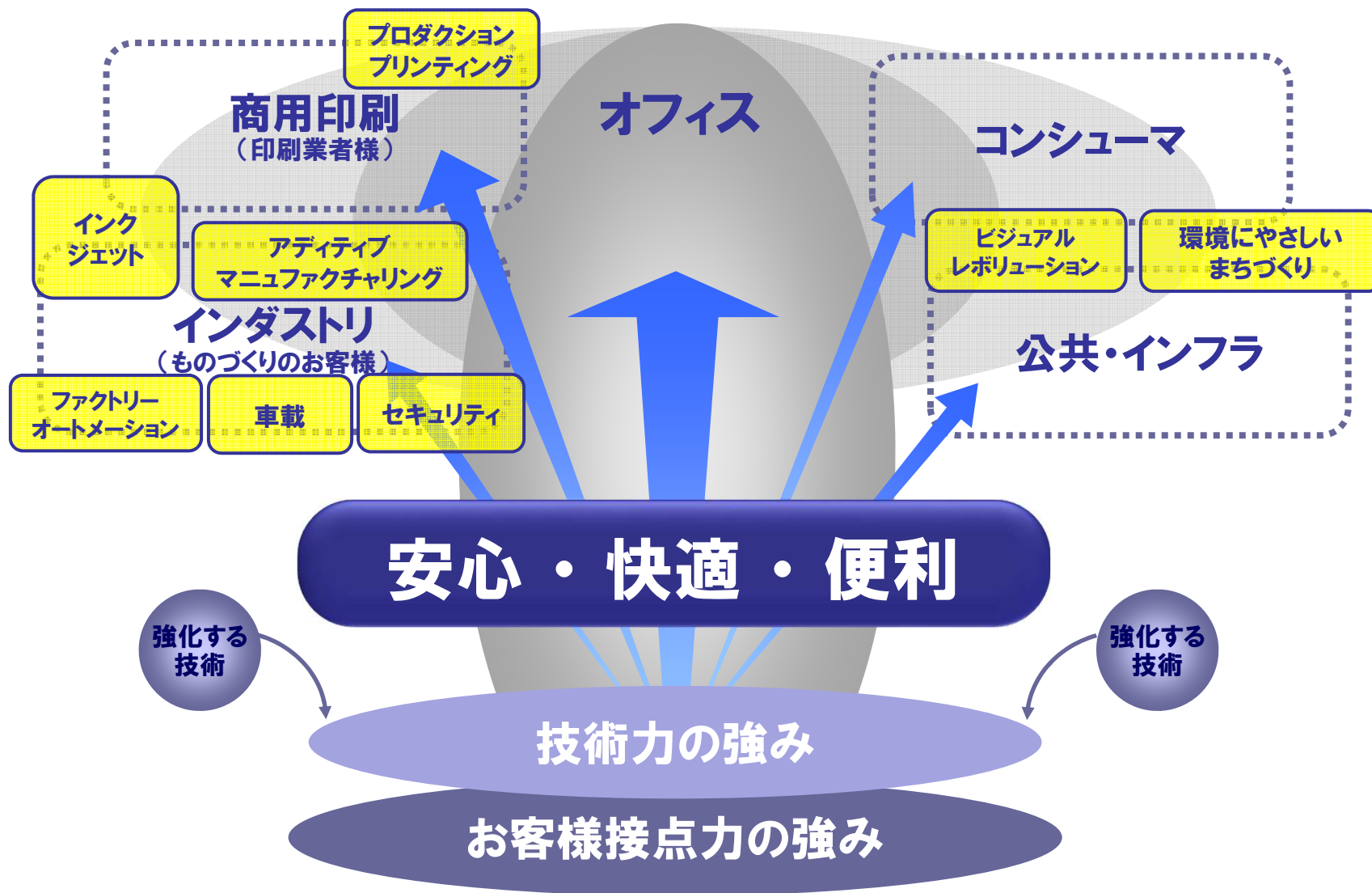
＜2020年と その先の未来へ＞ リコーグループが進む 方向性について



<2020年と その先の未来へ>

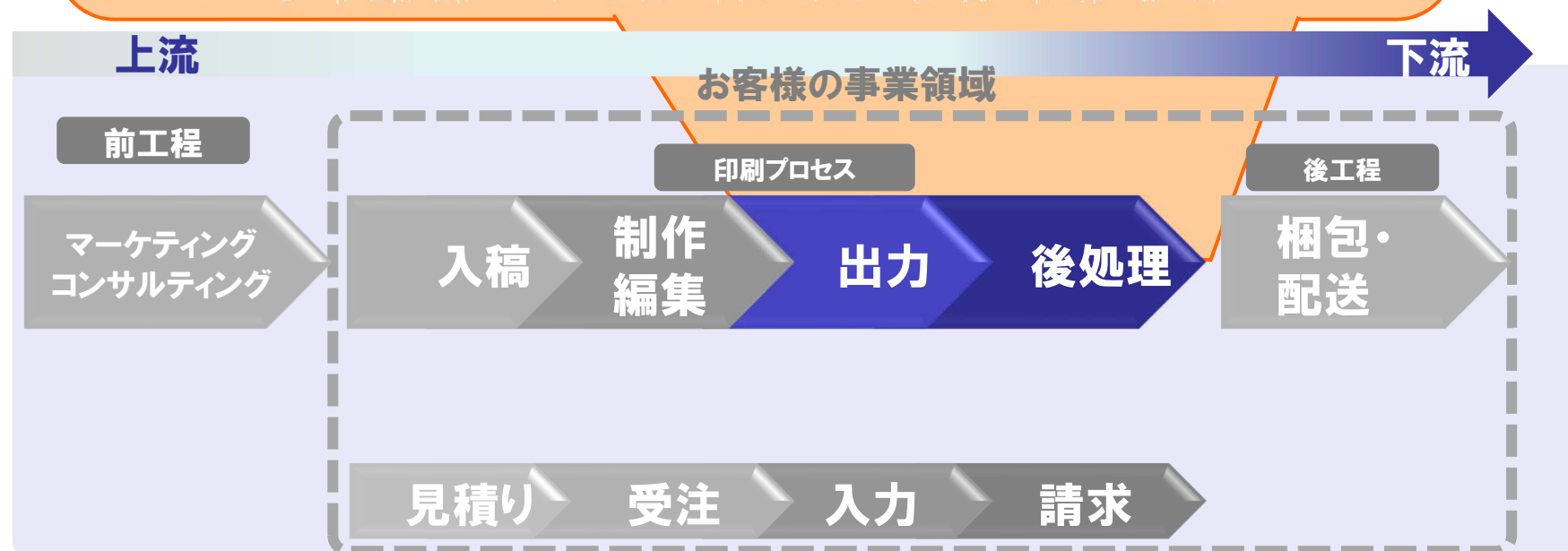
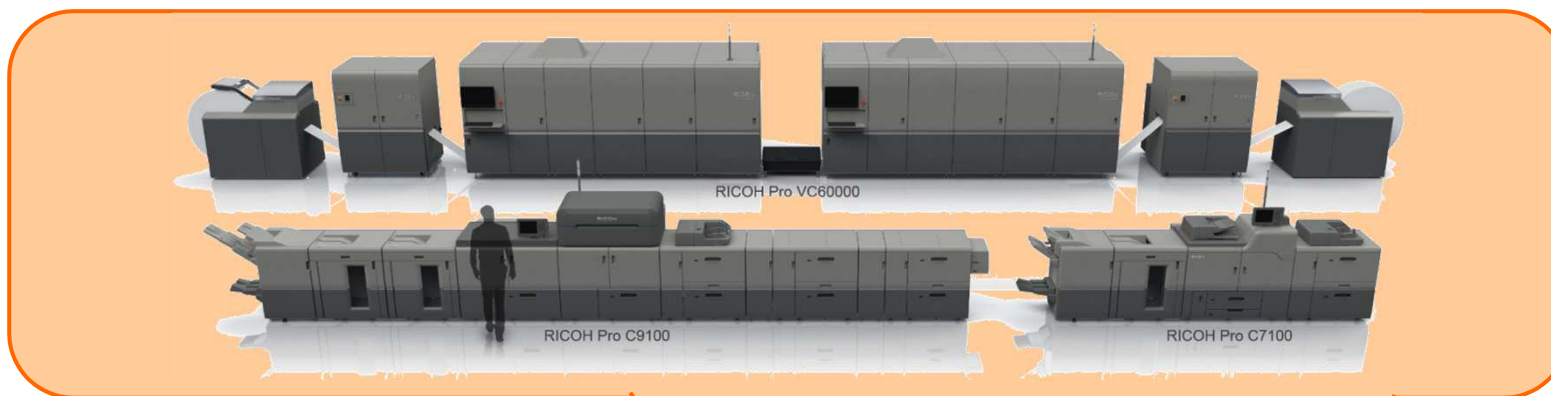
リコーグループが進む 方向性について

RICOH
imagine. change.



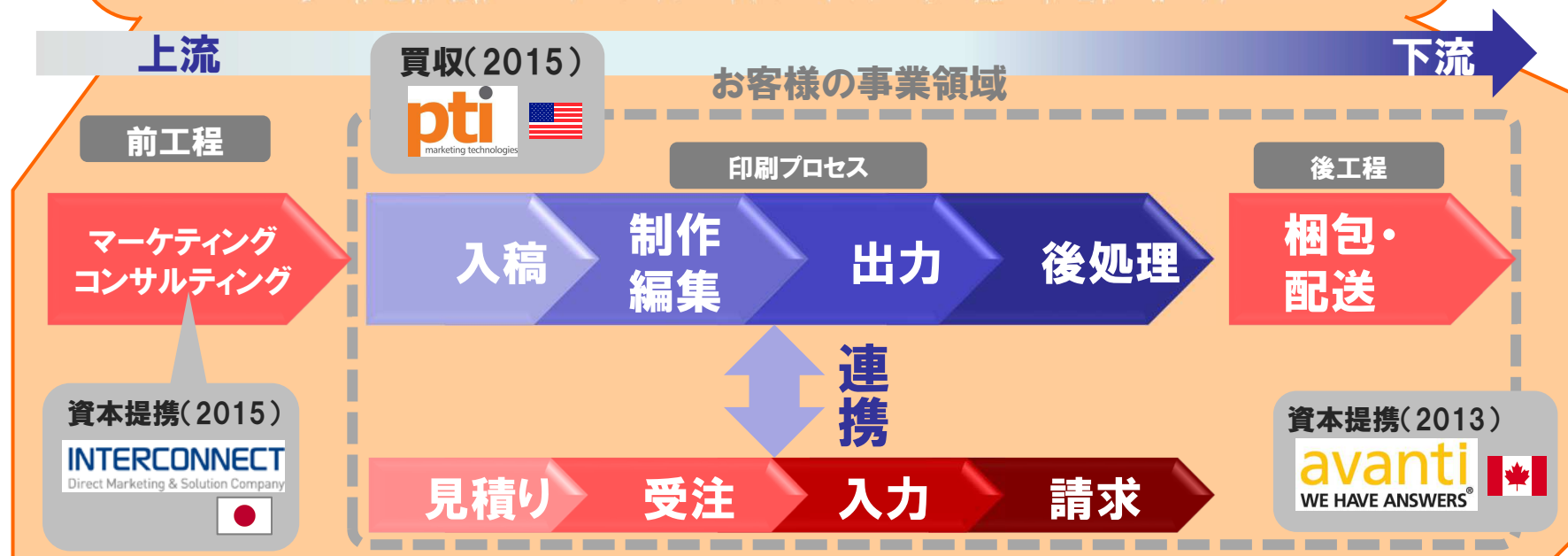
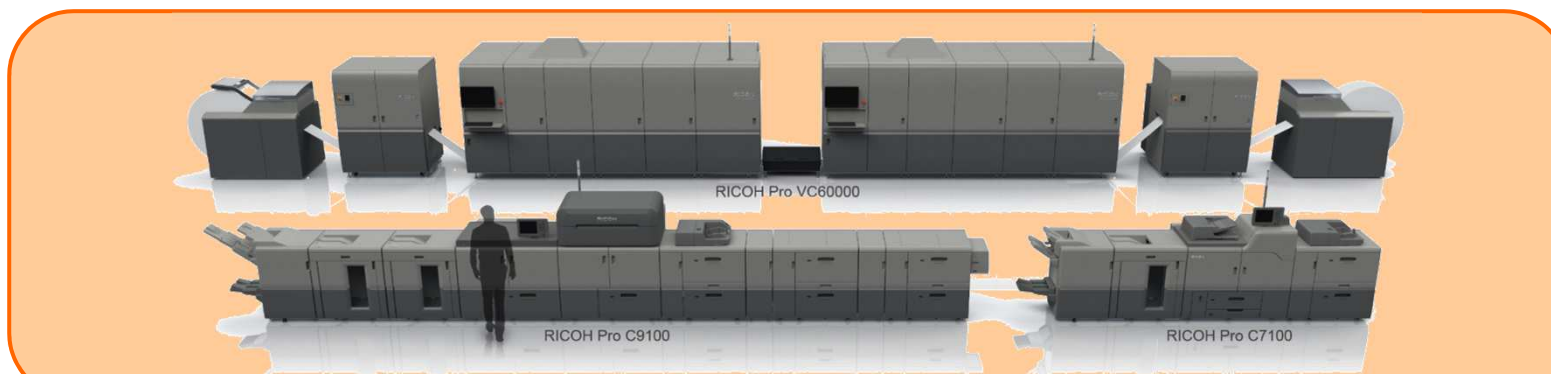
商用印刷における新たな取り組み

- ◆ 販促策企画・立案から、広告媒体や販促物の制作・生産まで一連のプロセスをワンストップで支援



商用印刷における新たな取り組み

- ◆ 販促策企画・立案から、広告媒体や販促物の制作・生産まで一連のプロセスをワンストップで支援

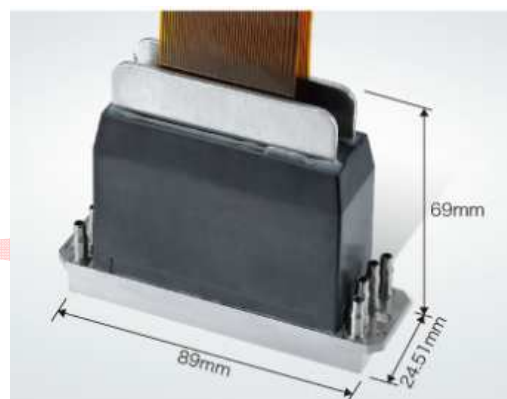


■ インダストリ (インクジェット)

◆ 独自技術を持つインクジェットヘッドを起点として 産業向け事業拡大

技術力

産業用インクジェットヘッド (MH / GHシリーズ)



- 高耐久性・インク対応力
- 高精細印刷
- 高粘度インクの吐出
- UVインク

さまざまなメディアへの印刷

ラベル、包装など



部品造形(3Dプリント)



衣料品など



装飾、加飾など



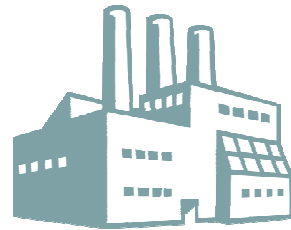
■ インダストリ (アディティブ・マニュファクチャリング) **RICOH** imagine. change.

- ◆ 3Dプリンターを軸としたモノづくりを支援する事業を展開
 - モノづくりイノベーション拠点「RICOH Rapid Fab」を開設
 - 3Dプリンターの販売、出力サービス、リコーの実践事例に基づくコンサルティングサービスを展開
 - 自社ブランド製品として初めての3Dプリンターを発売



■ インダストリ（光学/画像処理領域の重点市場） **RICOH** imagine. change.

- ◆ 光学、画像処理などの技術と生産ノウハウを駆使し、ファクトリーオートメーション（FA）、車載用途、セキュリティの分野を中心に事業を拡大



FA

（ファクトリーオートメーション）



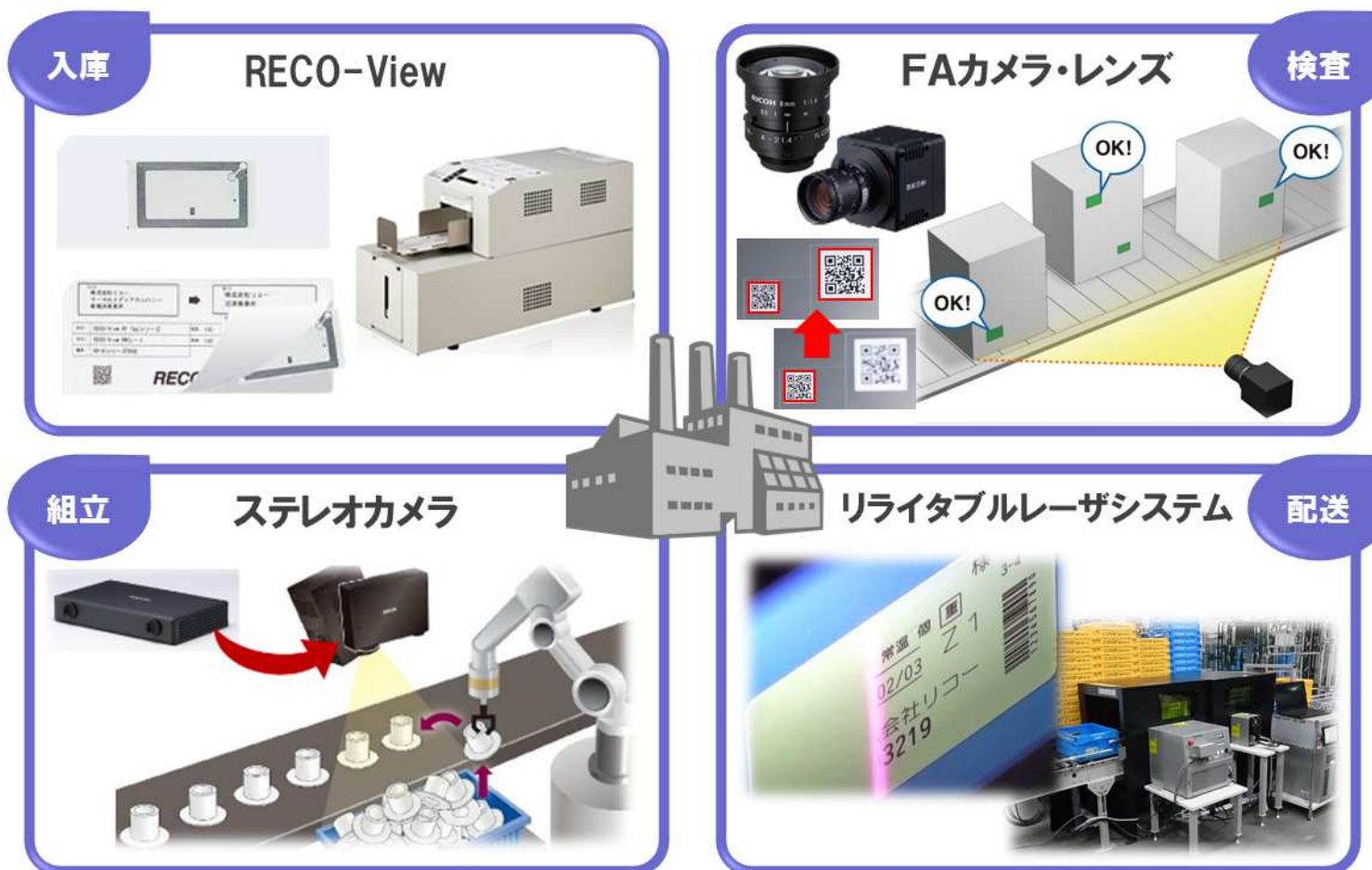
車載用途



セキュリティ

■ インダストリ (ファクトリーオートメーション)

◆ ファクトリーオートメーション (FA) における新たな価値の創造と効率化を推進するための製品を投入



■ コンシューマ・公共インフラでの価値提供

RICOH
imagine. change.

◆ 光学・画像処理技術(リコー & ペンタックス)を活用した新たな映像体験、価値提供

- 全天球カメラTHETAの活用場面の拡大
 - ✓ 不動産 など



◆ 環境への取り組み

- リコー環境事業開発センター開所
- 環境にやさしいまちづくり
 - ✓ 海老名駅土地区画整理事業への参画
 - ✓ 奈良県葛城市との環境エネルギー分野の実証実験



海老名駅西口地区の開発イメージ

■ 今後の方向性(まとめ)

<18次中計事業戦略>

① 基盤事業収益力の強化と成長

◆ 効率化

1. 抜本的なプロセス改革
2. 商品改革で製造・サービスコストの低減

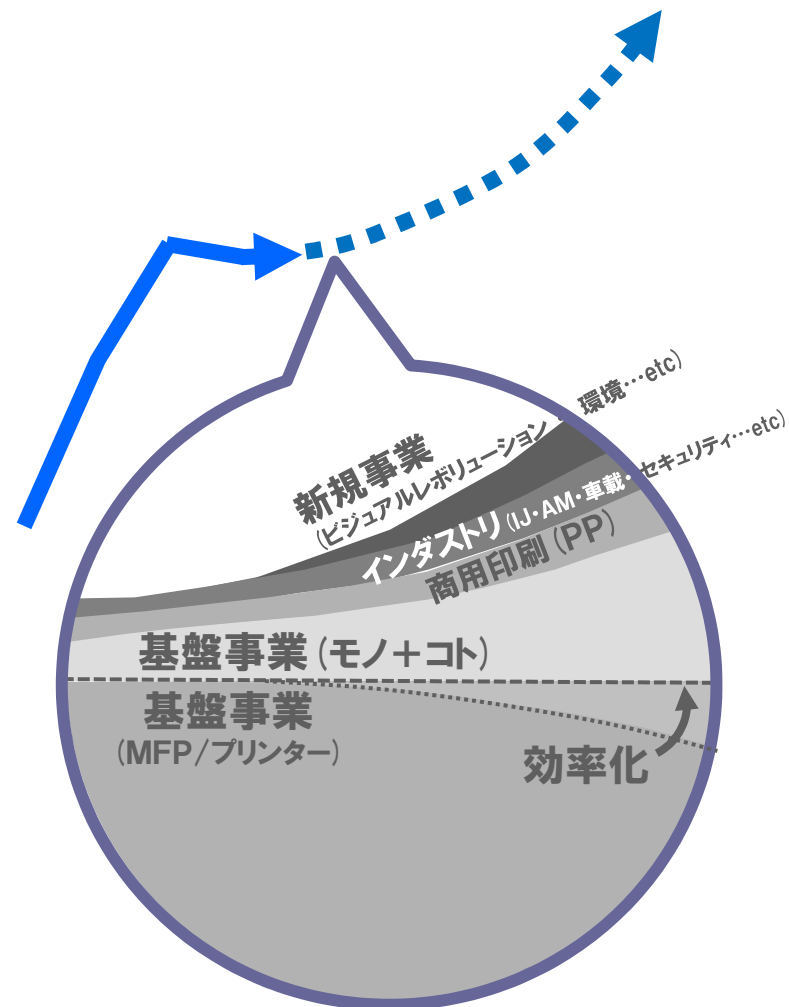
◆ 価値向上

1. 「モノ+コト」による差別化をさらに進化
2. 各地域での業種に特化した体制強化

② 新たな事業の柱の構築による成長

◆ 強みを活かして新たな柱を構築

1. 商用印刷
2. インダストリ（インクジェット、アディティブマニュファクチャリング、FA、車載等）
3. 新規事業（ビジュアルレボリューション、環境等）





RICOH
imagine. change.

RICOH
imagine. change.

<http://jp.ricoh.com/IR/>